



Title	フランス国立図書館（B n F）における敦煌文献の調査報告
Author(s)	椋島, 雅弘
Citation	中国研究集刊. 2020, 66, p. 71-77
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/76763">https://doi.org/10.18910/76763</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## フランス国立図書館（B n F）における敦煌文献の調査報告

梶島 雅弘

### 一 報告の概要・目的

筆者は、二〇一九年九月十一日～十三日にかけて、フランス国立図書館（Bibliothèque nationale de France、以下 B n F と略記）に赴き、敦煌文献（注①）のうち、占術に関わるもの（P.2610、P.2632、P.3288、P.3655、P.3479、P.3794）を対象とし、実見調査を行った。本報告は主に二つ方面から述べたい。

第一に、「B n F 所蔵の敦煌文献の閲覧方法について」である。B n F 所蔵の敦煌文献については、これまでいくつか調査報告が存在する（注②）が、閲覧方法自体に関する日本語版の詳細な情報は見当たらなかったため、小論がその情報について記す。

第二に、「敦煌文献の赤外線を用いた撮影方法について」である。後に詳しく述べるが、現在 B n F 所蔵の敦煌文献は、赤外線版とカラー版のいずれも公開されている。ただし、墨の擦れ等で文字が明瞭に確認できない部

分が少なからず存在している。筆者はこの部分について、「自身で赤外線量やカメラ設定を調整した上で個別撮影すれば、擦れた文字も読解しやすくなるのではないか」と考え実験した。小論では、その結果や撮影方法（注③）について述べる。

### 二 B n F 所蔵の敦煌文献の閲覧方法について

敦煌文献は、B n F の中でも「新館」と称されているフランソワ・ミッテラン館ではなく、「旧館」と称されているリュリユー館（58 Rue de Richelieu 75002 Paris）に保管されている。以下、入館から敦煌文献の実見までの流れを記す。

- ① 入り口で荷物チェックを受けて入場する。
- ② 入って右手にある館（図 1）に入り、受付から右へ真っ直ぐ進んだ場所でパス（入館証）の発行料を支払い、その後入り口左手にある場所でパ

スの発行手続きを行う。パスについては種類が存在するが、筆者は二〇ユーロで五日間閲覧室が使えるパス（一年間有効）の発行手続きを行った。なお、インターネット上でも発行・更新手続きができるようである。このあたりの詳細については下記サイトを参照。

(<https://www.bnf.fr/fr/richeleu>)

(<https://inscriptionbilletterie.bnf.fr/#1>)

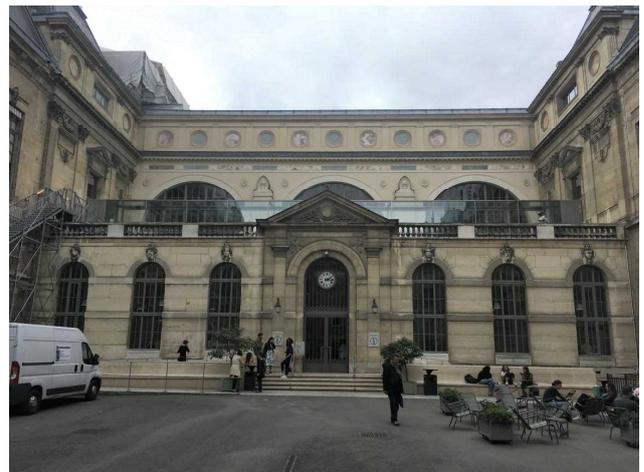
③クロックで大きな荷物や傘を預け、筆記用具・ノート・パソコン等を専用のバッグに入れ、エレベーターで三階の写本閲覧室 (Manuscripts・Salle de Lecture) へ向かう。

④閲覧室では、まずは受付でパスと引き替えに、座席カード (図2左) と一時離席の際に必要なカード (図2右) をもらう。

⑤荷物を一旦座席に置き、座席近くに備え付けられているパソコンからBnFのウェブサイト (<https://archivesetmanuscripts.bnf.fr/pageCollections.html?col=1>) へアクセスし、閲覧申請を行う。まず、上記サイトのCollectionの覧から「Pelliot chinois」を選択し、希望の敦煌文献をクリックする。すると文献の基礎情報の解説が表れると共に、「Reserver」のボタンが出現する。これをクリックし、閲覧予約を行う。リンク先では、まずアカウントを作成した上で（既にアカウントを持っている場合はログインして）予約を完了させる。

⑥当日閲覧室で予約した場合、おおよそ三十分〜一時間程で文献を運んできてくれる。閲覧室中央の係の人が知らせてくれるので、座席カードと引き替えに文献を受け取る。

⑦座席で文献を閲覧する。なお、文献は一件ずつしか閲覧できないので、一つ閲覧が完了するごとに係に返却し、新たな文献を貸し出す、という流れとなる。



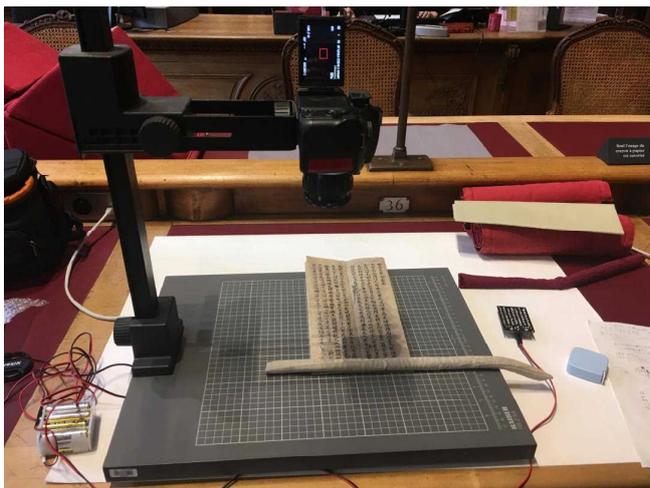
(図1) BnF リシュリユー館



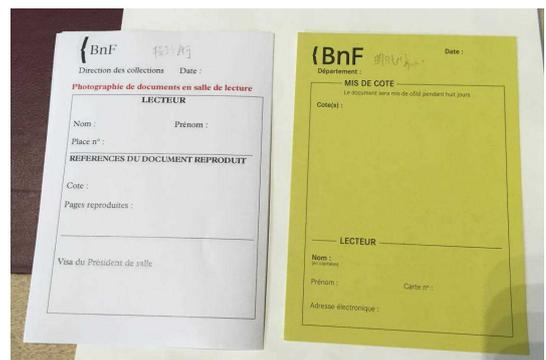
(図2) 座席カード (左) と離席カード

その他情報

- ・リシユリユー館の開館曜日は、月曜日から土曜日まで。（日曜休館） 閲覧室の開館時間は、午前一〇時から午後六時まで。（文献の閲覧申請は午後五時まで）
- ・閲覧室へのカメラの持ち込みは可。ただし、写真撮影する際は一つの文献ごとに申請書（図3左）を提出する必要がある。
- ・日を跨いで閲覧したい場合は、文献を返却する際、黄色の申請書（図3右）を提出する。
- ・閲覧室内のカメラ固定台を借りることができる。（図4）
- ・閲覧室を一時退出したい場合は、入り口の係に一時離席の際に必要なカード（図2右）を渡して退出する。
- ・敦煌文献の中には、特別申請が必要なものが存在し、その場合は紫色（図5）の申請書を提出。
- ・閲覧予約自体は、閲覧室内でなくとも可能。従って、二回目以降はあらかじめ予約してから訪れるとよい。また、訪れる前でもネット上でパスを発行できるため、恐らく初回でも行く前に予約することは可能である。



（図4）カメラ固定台



（図3）写真撮影の申請書（左）と  
閲覧延申請書の申請書（右）



(図5) 特別申請書類

### 三 敦煌文献の赤外線を用いた撮影方法について

次に、敦煌文献を実見して感想を述べ、続いて赤外線を用いた撮影方法についてまとめる。

#### 実見の所感

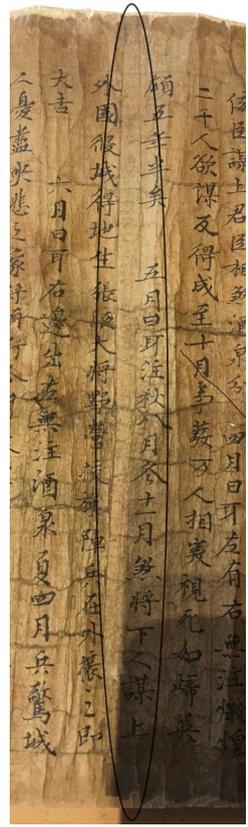
- ・筆者が実見した敦煌文献六種 (P.2610、P.2632、P.3288、P.3655、P.3479、P.3794) は、いずれも補修加工されていた。具体的には、紙の両面がやや固い材質のガーゼで覆われている。(図6) また、巻物になっている文献はやや乾燥ぎみで、一部ひび割れが確認できた。(図7)
- ・形状が巻物の文献の継ぎ目について。インターネット上の公開画像だと必ずしも明瞭ではないが、実見だと比較的明確に分かる。(図8) ちなみに筆者が確認した P.3288 は、計15枚存在し、その大部分が1枚あたり41センチ×44センチ程度であった。



(図6) ガーゼによる補修  
乾燥した質感 (P.3288)



(図7) ひび割れ (P.3288)



(図8) 継ぎ目 (P.3288)

### 赤外線を用いた撮影方法

まずは、BNF蔵の敦煌文献の公開状況について述べる。まず、Gallica (<https://gallica.bnf.fr>) である。本サイトでは、高画質のカラー写真を無料で掲載している。しかし、文字が擦れて確認できない箇所が少なからず存在する。

次に、上海古籍出版社・法国国家図書館編『法国国家図書館蔵敦煌西域文献』(上海古籍出版社) シリーズである。本図版は、明言しないものの、紙の汚れが非常に強調されているため、恐らく赤外線を照射した上での写真を白黒で収録している。この写真は、箇所によってはカラー版だと薄れている箇所がやや明瞭になっている。しかし、それでも不明瞭な箇所は存在する。

筆者は、図版の赤外線照射は、恐らく広大な箇所に一斉に行ったため、不明瞭な箇所が残っているのでは、と推測した。そして、不明瞭な文字の部分について、局所的に設定調整した上で赤外線照射して撮影すれば、よりその文字が明瞭に見えるのではないかと考え、実験を行った。結果から言えば、筆者の予想通りとなった箇所が存在した。以下、赤外線撮影の方法と具体例について述べる。

### 赤外線撮影方法

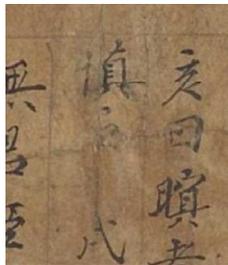
- ・カメラは「Nikon D5100」、レンズは「Nikon Ai Nikkor 35mm F2.8 ヲニユアルフォーカスレンズ」を使用。設定は以下の通り。
- フィルター→NEWER 58mm赤外線フィルター：IR720
- 絞り値↓2、8
- 露出時間↓30秒
- 画質モード→RAW+FINE

・赤外線照射装置については、「赤外線投光器キット(改) [AE-LED56V2]」を組み立てて使用。(注4)

・カメラは閲覧室所蔵の固定台に設置した上で、文献近くに右のキットで赤外線照射しながらシャッターを押して撮影を行った。

具体例(対象文献は、主にP.3288とP.3479)

・それぞれGallicaの公開画像(A)↓赤外線図版(B)↓筆者撮影の赤外線画像に処理をかけたもの(C)の順番で掲げる。



↓(A) (B)より(C)のほうが、画像中央の「之」字が明瞭に確認できる。

(例2 P.3288 「十二月生氣法」)

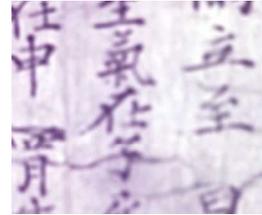
(A)



(B)



(C)



↓(A) (B)より(C)のほうが、画像中央の「子」字が明瞭に確認できる。

(例3 P.3479 「鳥鳴占」背面)

(A)



(C)



↓(A)より(C)のほうが、「永安寺」(右部)、「永安寺」(左部)が明瞭に確認できる。

### 結語

以上、B n F蔵敦煌文献の調査方法に関する報告と、赤外線を用いた撮

影方法や成功例に関する報告を行った。無論、この方法をもつてしても、紙面自体が存在しない場合、文字を読み取ることは不可能である。また、紙面が残っていたとしても、墨(炭素)が掠れきっていれば、文字は不明瞭なままである。しかし、具体例で示した通り、少なくとも今回紹介した方法で、文字が明瞭になる場合も存在した。

今回の撮影において使用した機材は、全て特に高価では無いので、誰でも今回のような赤外線撮影を行うことができる。また、閲覧・撮影許可さえ下りれば、他機関が所蔵する敦煌文献だとしても、行うことが可能である。

### 注

(1) 敦煌文献の概要については、榎一雄ほか編『講座敦煌』全九冊(一九八〇〜一九九〇年)や榮新江『辨偽与存真 敦煌学论集』(上海古籍出版社、二〇一〇年)、

岩本篤志『唐代の医薬書と敦煌文献』(角川学芸出版、二〇一五年)を参照。

(2) 具体的には、岩本篤志「敦煌文献の形と色―英仏蔵文献に関する近年の図録本から―」(『資料学研究』第五号、二〇〇八年)や、矢越葉子「フランス国立図書館における敦煌文書調査」(大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書、二〇〇九年)等が存在する。また、龍谷大学のウェブサイト (<https://www.ryukoku.ac.jp/news/detail.php?id=6498>)では、B n F所蔵の敦煌文献の紙質に関する報告が閲覧できる。

(3) 赤外線撮影については、大下浩司・下山進「汎用デジタル一眼レフカメラを用いた赤外線写真撮影方法」(『文化財情報学研究』第十一号、二〇一四年)や同「汎用デジタル一眼レフカメラを用いた赤外線写真撮影におけるシャープカット

トフィルターの影響」(『文化財情報学研究』第十二号、二〇一五年)を参照した。

(4) なお、赤外線照射装置については、調査後に大下浩司・下山進「汎用デジタル一眼レフカメラによる赤外線写真撮影に適したハンディタイプ赤外線ライトの比較評価」(『文化財情報学研究』第十一号、二〇一四年)に、「NightMaster 製 X3-IR」が最適だという記述を発見した。場合によっては、これを用いることによって、さらに文字が見えやすくなる可能性がある。

#### 【附記】

小論は、「公益財団法人日本科学協会 二〇一九年度笹川科学研究助成」(研究課題「唐代西域における兵学と占術―中・仏の敦煌文献を活用して」)の研究成果の一部である。

また、今回の調査にあたり、ナタリー・モネ (Nathalie Monnet) 氏には現地にて敦煌文献の閲覧方法について数々のご教示を賜った。記して御礼申し上げたい。また、赤外線を用いた撮影方法及び画像処理については、久万高原天体観測館の藤田康英氏に数々のご教示を賜った。併せて御礼申し上げたい。

枕島雅弘(かばしま・まさひろ)

一九九〇年生まれ。京都産業大学全学共通教育センター非常勤講師。専門は中国兵学思想史。共著に『中国思想基本用語集』(湯浅邦弘編著、ミネルヴァ書房、二〇二〇年三月)、主要論文に「銀雀山漢墓竹簡『天地八風五行客主五音之居』における八風理論とその變遷―客主觀を中心として」(『中國出土資料研究』第二十二号、二〇一八年七月)など。